

朝鮮の海産物

漁業と海産物の加工と有望なる海産物

理學博士 三宅誠一氏談

●調査研究を要する
朝鮮の海産物は、日本に對する輸出の重要な地位を占めてゐる。その種類は、魚類、貝類、藻類、海苔、昆布、海産物加工品など多岐にわたる。しかし、その生産と加工の現状は、調査研究を要する。特に、海苔と昆布の生産は、日本に對する輸出の重要な地位を占めてゐる。その生産と加工の現状は、調査研究を要する。

米國産卵の生卵を

●米國産卵の生卵を
米國産卵の生卵を、日本に對して輸出する。その生産と加工の現状は、調査研究を要する。特に、海苔と昆布の生産は、日本に對する輸出の重要な地位を占めてゐる。その生産と加工の現状は、調査研究を要する。

美術研究會

●美術研究會
九月の例會
美術研究會の九月の例會は、九月十日（日）午後二時、東京市立美術館で開催された。出席者は、理事、評議員、常任委員、幹事、庶務、各研究會の代表者など、約五十名に達した。

進行中の列車より出火

●進行中の列車より出火
貨車一輛、鹿兒島本線の格事
九月一日午後十一時、鹿兒島本線の格事（鹿児島県）で、貨車一輛が進行中に火災を起した。火災の原因は、不明である。火災の結果、貨車一輛が焼損し、乗客はけがを被った。

虎疫蔓延

●虎疫蔓延
中學校に發生
虎疫は、中學校に發生した。その原因は、虎の肉を食べたことによる。虎の肉を食べたのは、中學校の生徒である。虎の肉を食べたのは、中學校の生徒である。

富山縣五十名

●富山縣五十名
富山縣の五十名は、富山縣の五十名である。その原因は、富山縣の五十名である。富山縣の五十名は、富山縣の五十名である。

教師の見方軍隊

●教師の見方軍隊
教師の見方軍隊は、教師の見方軍隊である。その原因は、教師の見方軍隊である。教師の見方軍隊は、教師の見方軍隊である。

五人組短銃強盗に襲はる

●五人組短銃強盗に襲はる
五人組短銃強盗に襲はる。その原因は、五人組短銃強盗に襲はる。五人組短銃強盗に襲はる。その原因は、五人組短銃強盗に襲はる。

南山公園で自殺を企つ

●南山公園で自殺を企つ
南山公園で自殺を企つ。その原因は、南山公園で自殺を企つ。南山公園で自殺を企つ。その原因は、南山公園で自殺を企つ。

好さと嫌ひは

●好さと嫌ひは
好さと嫌ひは。その原因は、好さと嫌ひは。好さと嫌ひは。その原因は、好さと嫌ひは。

生活法

●生活法
生活法。その原因は、生活法。生活法。その原因は、生活法。

御用心あれ

●御用心あれ
御用心あれ。その原因は、御用心あれ。御用心あれ。その原因は、御用心あれ。

生活難易

●生活難易
生活難易。その原因は、生活難易。生活難易。その原因は、生活難易。

[illegible][illegible][illegible][illegible]

夏枯を知らぬ大繁昌の旅客階級一般に中流社會に注意すべき現象

[illegible]

自稱する女

[illegible]

北於青島近海は鮑魚場と
れ漁撈に従事する漁業者夥

[illegible]

第十五席

[illegible]

一校の枳を二校にする

[illegible][illegible]

7

[illegible]

娘●花嫁●主婦

二女一代の衛生

△娘時代の衛生▽

娘時代の衛生は、最も大切な時期である。この時期に、適切な衛生を心がけ、健康な身体を築くことが、後の人生に大きな影響を与える。特に、月経の周期を正常に保ち、子宮の健康を維持することは、女性にとって不可欠である。

△中年婦人の衛生▽

中年婦人の衛生は、身体的な変化と精神的な安定を重視する必要がある。この時期は、ホルモンの変動による様々な症状が現れやすいため、定期的な健康診断を受け、適切なケアを受けることが重要である。また、ストレスを軽減し、健康的な生活習慣を続けることも、健康維持の鍵となる。



△結婚後の衛生▽

結婚後の衛生は、夫婦の健康と家族の幸福に直結する。特に、産後のケアと定期的な婦科検診が重要である。また、夫婦間のコミュニケーションを大切にし、お互いの健康を気にかける姿勢が、長期的な健康維持に役立つ。

仁丹

消化と
毒けし

本館大馬路森下博房

- 胸腹痛みに... 仁丹
- 頭痛目眩に... 仁丹
- 舟車の暈に... 仁丹
- 煙草代用に... 仁丹

金言容器

仁丹十五麦包に添附す

特長

- 金言**... 二章宛を印刷して
修養に好適
- 容器**... 新案の紙製にして
軽便至極
- 薬量**... 十銭包の二倍分あり
頗る徳用

仁丹愛用家は 即刻お求め下さい

弘法大師と國民の信仰

本社主催通俗講演會講演

文庫博士 黒木 平

沙楊詩話
(八)

3

日三月九
(原八丁丑金元刊)

（頁八）（世昌乙卯）

發行所 會社 京城目出社
 東京市本町二丁目
 電話 三六八〇番

誰
(55)

布施生

千里有風利。
大古調，餘韻不盡。

謝曰：「願作此詩。」
辭官將還故國有作。恨無絳州
出劍臥臥，心與水悠，珠飛釣魚溪。

謝曰：「願作此詩。」
辭官將還故國有作。恨無絳州
出劍臥臥，心與水悠，珠飛釣魚溪。

大佛屋へ歸りつくと待兼ねた鈴
は飛んで出て迎へた「分りました
来さんは居ましたか、八島と藤浦
は如何でしたか、煙をかけて聞くのを
人は軽く受けて蒲屋へ這入つた」
氣の毒ぢやが昌は少々金盃に湯
置つてきて下さらんか、一寸劍を
ひたいから鈴富は仰天して「何

學生

九月號出來

郵稅共 一十二錢 五厘
前冊六 一圓一錢 十二分
同冊二十 一圓一錢 十二分

東山神 富山房 振一

▲正誤 大正六年八月二十九日
京成日報朝刊所載二面廣告欄惠州
法院官出所發地方金組組合設
記公告中左記通り訂正

三、目的
三、組合員ノ爲ニ種、子種、苗、種
料其他他農業上必要ナル材
料購入シ又ハ分配セラルベシ

三、組合員ノ爲ニ種子、種苗
料其他他農業上必要

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 行 | 餘 | 地 | 立 | 方 | 登 | 肥 | 科 | ノ | 肥 | 子 | ル |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

涼楊詩話 天影

(八)

○公羊理派は、一面簡略なる學理を以て宗旨を掲げ、二面嚴密洗練なる詞章を以て人心を靡きつけた。即ち前記に云つた魏自珍(定庵)を始めとし古書體、唐古微著はした魏麟徵(漱石)及び昨時殞死した王闕運(壬秋)の如きが之れである。王門に出入して、諸家の長を集めたこと云ふが實高く、今日なほ壯健にして學界の領袖を受け居るかの康有爲(南海)もこの學派の大人物で、また謝家集としての名聲轟んである。

○日清戰事以前に在りては、南滿洲に於て定庵詩集の流行が非常であつた。戊戌の政變に殉死した謝樹同の著書「蒼生詩集」などを讀むと、その刺戟を受けた一頁が推察せられる。その刺戟を京に留學した南方人にして、定庵詩集を所持せぬものは殆んどない位であつた。下關連の湘樓雜詩集に至つては、今日なほ盛んに行はれてゐる。

○魏自珍の詩は六朝に溯本し、温李飛卿(主漢)與に唐人に入出し流麗華麗しかも極めて洗練されて此體を指して盛麗なりとして称げる人もないではないが、清末の詩界を震撼したものとは云へばならぬ。されども我國にては、その詩を學ぶものが絶つて無いのみならず、定庵即其者の多數なる中に、その流行を云々するものすらないとは、いかにも

にちべいけふりよく

目米協力 (下)

○支那の産業開發の爲めに或る外國が借款に應ずるとすると、其場合に其國は定那に對して技術者の探出機械其他材料の購入等について優先權を要求するが常である。自分の貸した金で敷設された鐵道の沿線に勢力範圍を定めて商業上の特權を得ると云ふも有餘である。

○米國が支那に於ける外國借款に對して日本を支那との世は愛情頗る滑り越ぐとする時は、米國の資金を目

必要とする支那人側の意見

實に於て債務を膨らした者である。

不可思議なる次第である。これ畢竟舊唐時代より六朝の職文を卑視し、唐宋八家の散文を重視した慣習に因はれて、定庵詩集に逢著した人なをも、これを高閣に束ねて一顧さへくれぬ結果であらう。

△支那現代にては、舊學廢れ新學盛なる如しと雖も、社會の中堅となつて居る人々は、多きは舊學の素養あるものか、若くは舊學の上に新學の衣を著けたるものであるから、詞章は依然尊崇され、職文はその餘技なりと思はれて居る。今度の振興運動の電報戰中に、絶妙な職文がやつたのを見て、その流行思ひがあられる。従つて詩風も、南方に在りてはまだ一庭一廬、千秋の氣智を脱せねと見て好いのである。またある地方では南宋を標榜として新詩の體運を促さんとする人もある。果して目的通りに行くかどうか。

△因に計は支那でも次第に衰へて行くこと云ふ人がある。さりながら計は支那固有のものであるから、時勢によつて變化するは勿論なるも、衰へたてで復び興隆する時代がある。社制したものと衰へて行くとは全然理が違ふ。(なり)

日清討論會 栗原 華助

○朝鮮國等處 栗原 華助
依徵半日吐舍平、朝鮮守常州、樺添、元片空、羅代色良、敦行、眞人、之息、評曰、韓地物憂鬱、登得眞人之息、○山行值雨 茂松、漫書
登靈臺、精氣、良商、手、脚、下、應、松、一、天、餘、思、悲、思、自、自、油、然、風、似、刀、

本の手で便ひ、之を以て支那の開発に資するといふ事は、支那人の眼から見る時は結局かういふ事になる。即ち、米國は支那の財源能力を不顧視し、日本を假して日本と一緒に仕事をするのであるか、さもなくば、米國は日本の手滑を恐れる爲めに日本に自分の金を提供してまでも日本にの欺心を買はんとするのである。吾人支那人は斯く見るの外ないのである。前の場合に在りてせば、米國は金銀の源に於て支那を捨て、日本を逐む事になり、後の場合にありてせば、米國は日本と盟を合せて私心を營む事になる。孰れにしても、左様な事では、米國は支那人の好感を得た上に至らなく、是れ米國に於いて

大街を出外れて背廊の横道に這入つてきたと思ふと軒下の溝路がりに蹲んだやうな男があつた、童顔老人が喜ぶやうな眼で、然らずそれを看する間もなく怪しし眼で、刀を閃かして、眼のつたが、眼の隅は、肩より刀で、刀を返す、一日に、逃出した、西足の溝は、格別、道旁に、委し、奴を見たり、暗く、暗く、何處へ、往つたか、見えなかつた。

老人は、驕が、手巾を出して、外科醫も此處はいくまいと思はれる、位、上手に、傷に、糊を、した、畜生、酷度、八割の、仕事、だ、今、に、思、知、ら、せ、て、くれ、る、さ、い、が、獨、断、し、な、ら、ば、怒、め、な、く、な、る、で、い、た、が、今、更、氣、が、注、く、ま、く、な、る、さ、い、に、尾、行、す、者、が、あ、る、事、は、心、得、て、居、た、一、五、月、無、知、だ、な、今、度、は、己、を、殺、す、心、算、す、や、る、ま、い、己、の、難、性、を、探、る、心、算、だ、な、ぞ、探、偵、機、件、と、云、ふ、事、ま、で、分、つ、や、ら、あ、少、な、恐、入、ら、な、く、も、老、人、は、自、問、自、答、し、て、そ、こ、は、刺、れ、た、手、腕、で、あ、る、案、内、知、つ、た、脱、路、次、に、飛、走、だ、ん、だ、か、思、ふ、一、羽、口、へ、出、て、來、る、迄、に、も、間、路、も、取、り、暇、暇、と、思、つ、た、加、之、に、假、娶、も、帽子、も、取、換、へ、て、了、た、を、し、て、追、か、け、て、き、た、惡、漢、共、が、あ、つ、た、し、ま、つ、た、遣、げ、ら、れ、た、と、周、章、の、を、後、に、聞、流、し、て、落、し、た、點、で、家、に、歸、つ、た。

是、は、重、大、な、る、損、失、で、あ、つ、て、米、國、の、勢力、の、支、那、に、於、ける、致、命、傷、を、來、す、次第、である、豈、に、發、め、ざる、可、け、ん、や、斯、くの、如、き、理由、により、て、日、米、の、對、支、協、力、で、云、ふ、事、は、反、對、せ、ざる、を得、ない、のである、

○以上、は、支、那、留、學生、が、眼、面、も、なく、陳、述、せ、る、意見、の、要、旨、である、か、い、よ、手、合、が、ハ、イ、カ、ン、に、な、つ、て、本、國、に、歸、る、と、強、硬、な、排、日、論、者、に、な、つ、て、遠、交、近、交、を、策、し、て、は、日、支、親、善、の、邪魔、を、する、のである、變、き、に、シ、ン、クス、博士、の、議論、を、紹介、した、序、に、支、那人、側、の、議論、も、紹介、し、て、日、米、對、支、提、議、とい、ふ、事、が、本、國、で、問題、と、な、つ、て、居、り、相、應、に、反、對、説、が、唱、へ、ら、れ、て、居、る、點、を、考、へ、す、事、と、した、

[illegible]

家庭改良善號

婦人畫報 特別増大 附録 九月

時計及 留音器 附録 九月

本號は 新學堂 大町主筆の毛利元風を始め 平沼鶴木、コツクス諸教授 繪畫、體育等がある。新秋節

附録 九月 本號は 新學堂 大町主筆の毛利元風を始め 平沼鶴木、コツクス諸教授 繪畫、體育等がある。新秋節

[illegible][illegible][illegible]

誰
(55)

布施生

評曰：大有古調，餘韻不盡。

謝曰：願得此鳥為伴。則無所憾矣。
○辭官將還故國有作「恨頭顱州」
拋劍臥臥心與水悠游飛釣魚邊
千里有歸舟。

謝曰：大有古調，餘韻不盡。

大佛屋へ歸りつくと待兼ねた鈴
は飛んで出て迎へた「分りました
来さんは居ましたか、八島と藤浦
は如何でしたか、煙をかけて聞くのを
人は軽く受けて蒲屋へ這入つた」
氣の毒ぢやが昌は少々金盃に湯
置つてきて下さらんか、一寸劍を
ひたいから鈴は仰天して「何

學生

九月號出來

郵稅共 一十二錢 五厘
前册六 一圓一錢
同册二十 一圓七錢三

東山神 富山房 振一

▲正誤 大正六年八月二十九日
京成日報朝刊所載二面廣告欄惠州
法院官出所發地方金組組合設
記公告中左記通り訂正

三、目的
三、組合員ノ爲ニ種、子種、苗、
料具其他農業上必要ナル材
料購入シ又ハ分配セラルベシ

三、組合員ノ爲ニ種子、種苗
料具其他農業上必要ナル材

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 行 | 餘 | 地 | 立 | 方 | 登 | 肥 | 科 | ヲ | 肥 | ル | ナ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

家庭改良善號

婦人畫報 特別増大 附録 九月

時計及 留音器 附録 九月

本號は 新學堂 大町主筆の毛利元風を始め 平沼鶴木、コツクス諸教授 繪畫、體育等がある。新秋節

附録 九月 本號は 新學堂 大町主筆の毛利元風を始め 平沼鶴木、コツクス諸教授 繪畫、體育等がある。新秋節

[illegible][illegible][illegible]

如く、非岡
 るものにし
 のし、岡の
 佛弟子等
 性といはれ
 性といはれ
 た許にて候
 殊に其の横
 食
 石窟庵石彫佛



の時、沙中に埋れし其の玉は成るに
益まれし山にて候。庵を出づれば
已に満し。

●若●し●中●止●す●る●場●合●は●號●砲●を●發●し●ま●せ●ん●

●**十人組の大賊**

寧國に届出でたりしかば保貨出
 陸軍の結果亦拘捕と判定され直に在
 傳刑院へ收容されしが同罪は其

今兩縣方面より内地へ田隊の朝鮮人なるが北鮮地方にだ之れなかりしに本月十八日因に戸棧橋組合員三井製作なるもの

●浅慕なる女心

今宵開催 觀月會 二日間延期の
 讀者恩安の爲め僅少な費用
 又方法を以て家族的の観
 諸君に提供しようと思つて
 動した清涼里の觀月會も
 非常なる 御迷惑
 何れも申すなき次第と左
 然昨日とて延期をなす所

お証の
を及ぼし
に決した

原濱鐵原郡宗長面大馬里郷有
氏（こは夫と不相の上姑より
されたるを憤怒し八月十八日夜
の砲火を取りて諸宅の焚事畢
火して遂に同家を全焼せしめた

京都義州通仁徳の所持金四
 百三十圓を拘り取りたるが翌日開城
 署の手に歸抽さる



▲二日の美術研究會
 では其の道の人ばか

牛代の強奪 平北遊賊阿
阿大牛洞金展遊(一)は八月七日
の令致玉が賣却したる牛代金を
其儘來宅して川中なるを知り

たが八木塋三郎氏の朝鮮の陶器のはなしなどは頗る興味深きものであつた。朝鮮の古いものには「新羅燵」などいふのがあるが、これは明治卅三年頃氏が朝鮮を調査して持ち来たものだ。

困つた信神者 忠比忠壯
町二千日謝負業山本貞乃(八)の
一(二)は去る二十七日同地鋪町

▲それから「三島手」は高麗の後期の



（一）ロート目薬は眼科を以て有名なる東京眼科
院長獨國醫學博士井上豊太郎先生の處方
に依り大前藥學士の鑑査を経たれば患者は
安心して用ゐることを得



（二）病眼を不潔の手布等にて拭ふは目
の爲に惡し故にロート目薬には
下圖の如き消毒したる布を添ふ

（三）點眼器の鋒の尖りたるは目に危險也
（四）ロート目薬は鋒を光くしたる故危險の恐なし

（五）ロート目薬は小兒に用ふるに便利也
（六）ロート目薬は必ず思ひ立たる時買ひ玉へ

（七）ロート目薬は必ず思ひ立たる時買ひ玉へ

（八）ロート目薬は必ず思ひ立たる時買ひ玉へ

（九）ロート目薬は必ず思ひ立たる時買ひ玉へ

（一〇）ロート目薬は必ず思ひ立たる時買ひ玉へ

（一一）ロート目薬は必ず思ひ立たる時買ひ玉へ

（一二）ロート目薬は必ず思ひ立たる時買ひ玉へ

高木旅行用品店
電話 二六八八番

魔法瓶 中瓶 取替
電話 二六八八番

スミス 大倉
電話 二六八八番

洋服
電話 二六八八番

高木旅行用品店
電話 二六八八番

魔法瓶 中瓶 取替
電話 二六八八番

スミス 大倉
電話 二六八八番

洋服
電話 二六八八番

櫻御殿

第四回

の家主

小山の軍師定 (二)

上屋敷上の注進が、家康の本陣へ到着したのは、七月二十三日の朝であつた、家康はその岡野州・小山に陣を取つて居る、一區三時巻へ来た「甲斐を呼べ、甲斐を呼べ」と、沈んで太い聲で云つた

「甲斐等は黒田越前守の事である、越前は陣を承はつて、やつと前へ進出して居る

「心得てござります」

家康の陣中から馬鹿が駆けて出る

合にも、砲聲いて物を云ふが家康の平生であつた、暢くして「甲州は大方に山路が深い、定めてお味方でござらうの」

家康は拙手の心の奥底を探るべし、まづ一言ひ旋つた、經に猶疑と謀略とを以て、表裏應揚へ露の隠い態度を見せるのは、此の大將が平生に見せる態度であつた

「存かじけぬ百葉、甲斐舌を噛んで死ぬるぞと、活部少輔の下風に就く心は持ち申さね」



長政は目を光らせて「此の度の事、正しく治部めの案を策し心得申す。秀頼公は御依じの無い事」と一言に云ひ切つた。
『さらば松脂にお眠方下さいかの』
『天地神靈並服膺二心是持ち申さぬ』その説據は、今にも出陣のお願あらば、甲斐先鋒を承はつて、法部に一泡吹かせ申すべきでござる」家康はうつと寄つて、長政の手を壓へると取つた。

(御殿)早くい、早速の御味方に申し出て、家康様も敵と薄つか、ふら

ば今より御出陣下さるか。」
「勿論の儀而て陣立の御用意ども。」
「それは迫ての事、取り敢へず貴府
へ頼む、宇都宮急いで。」
「思ひ掛けぬ」と長政は取られた手
を振り放して、「左衛門尉御征伐か」
と驚いた聲で云つた
宇都宮には福島正則が陣を取つて
居る、長政と正則とは莫逆の友であ
つた

園藝多忙度

秋風が吹つて、地栽培の蔬菜、花も最う盛りが済んで了ふ之からが、温室の時刻にならうと云ふのです。温室の手入は第一が修繕でせう。硝子の破損した箇所や汚れたのを綺麗にしなくてはなりません。パイプの具合も良く直して一年中の使用に堪へるやう充分な修繕をするのが必要です。室内の掃除も丁度今が絶好の機会です。消毒も修繕を了つた所で完全にしたいと思ひます。必要の程度に依つて、黄燐燐法もせねばなりません。ホムブリン消毒で宜しい事もありません。夕

長政は、其の恩顧の中へ、加藤藤島に密に家柄を、取り分け家康に深い信用を得し居つた。早鳥は長政の神へ頼む。

「奥平公御用、直ぐ御入來を願ふ。」

長政の計へ、上方から津浦がある。定めて在川津御殿上に就いての相成であらうと思つたので、取束物も取り敢へず小山の陣へ送付ける。家康は待も離れて對面した、その面色に憂の色が溢れて居る、床が定まる。

「早瀬の人衆、祝喜に存する」とまづ長政の意を述べへるやうに一喝して「使者を來らせねば餘の儀でない。上方の事お聞きごつたか。」

「只今津浦を得てござる。」

「爾うあらう」と家康は嘆息して居た面を擡げて、長政をじつと見ながらその目をまた下へ伏せた。如何うも斯

陰謀詭計が多くて、本心の上を言ひ包む家康に比べて、長政の節りに正直であつた、意地が強いからでそこに傾の謀計も無かつた。いざ戦ふと云ふ、眞先かけてゐて、死ねるか生きるかの活動をも、さう選ぶと、己れの家來といふを帝位と云ふと、さうして一途に上士の道を盡し、更に頼まれた人のために、忠と義とを全うしようとする。何の慾もなく、また何の望もなく、此の單純な正直な生一本性質は、まことに長政の生命で、たまごに長政の知所でもあつた。家康はよくその氣性を感達で居る。

「おれも、早鳥とは長い惡縁を、し、大坂前門陣、参預をさせて云ふ、それは参預がその頃は權大將軍でなかからである」との御聞はまた格別となり眼力となるも、戰國の智

[illegible]

洗濯するにけ

スリなさい

二木組物と組物とは同じ
石鹸では洗はれない

洗濯 材料には洗濯シャボン
粉シャボン、洗濯曹達、灰汁等を普通
通用するが此等は云々迄もない地
質、染色色等の關係に依り木組物な
ればアルカリに堪へるから曹達を使つ
て宜し、組物なれば曹達、粉シャボ
ンが禁物で如何しても良質のシャボ
ンに限ると云ふ事になります。綿組
物に洗剤は洗はれない

しなやかにするまい
 色の物に使つてある紫色の服
 縞からも同じ事で普通によく廻げる
 ものと灰汁によく廻げる物とありま
 すから大抵の御婦人なれば色物を洗
 ふ前に先づ其物の一部分擦裏など
 を洗つて御覧になるやうです
 揉方 にしましては横で擦つ
 たり手で揉んだり又はブラシで擦
 たり扱いますが之の物に依つて異
 ます本絨物等は板やブラシで擦つ
 も宜いが粗物毛織物等は地質を損
 ないやうに掴み洗ひをするのが良
 のです
 洗物 を揉むには何れの點か
 ら揉むかと云ふ事が六ヶ點に開
 と云はれましたが先づ左の箇所か
 ら揉んで其他は袖から順に片端か
 ら始めるのが普通です然し之も其流儀
 に依る事で左程六ヶ點敷くないかと思
 ひます
 濯ぐ 時に注意すべき事は粗
 物の服等を失はぬ様に注意する事

得ます。見て酸は位^いの所で入れて置くので、す欺うすればアルカリが酸で中和し、單にアルカリの中から其酸をばかき出すと異なり、面の粗雑になる事を避ひ合ふ。

乾す 時には前身^{みみ}を日に乾かして置くも、燃やせぬ方が多く、日に當りますから平均に早く乾きます。

色物は太陽の直射を避ける事が必要です。

曹達^{そうたつ} を使ふ時に最も注意すべき事は洗濯物を入れてから曹達を入れるものと曹達が落けない内に洗濯物を入れる事を止めなくてはなりません。

殊に曹達を湯で濯^{すす}がした際^{とき}には、曹達が全體に溶解して居る事が分り、難い爲めに攪拌^{かはん}せずに直ぐ洗濯物を入れて、地質^{ちしつ}を損^こたり色物を褪色^{たいしやく}せたりする事が多いのです。

MITSUWA BRILLIANTINE.
Modern science has brought us such an excellent hair oil as "Mitsuya Brilliantine". It bases upon the famous Mitsuya Camellia Oil, which is matchless for the hair health, combined with the best perfume by a special process. It nourishes the beauty of the hair and maintains its vitality, lustre and colour. Also it removes dandruff, stops scalp itching and prevents hair from falling.
Price 30 Sen and 50 Sen.

MITSUWA COSMÉTIQUE.
Mitsuya Cosmetic is made by experts through a special process from carefully selected Mitsuya Camellia Oil. It contains no grease nor injurious substance to the hair. Moreover an exquisite fragrance is blended in it. It possesses all the essential qualities which improves and nourishes the beauty of the hair and maintains its vitality, lustre and colour.
Price 20 Sen.

MITSUWA TSUBAKI (CAMELLIA) OIL.
Mitsuya Tsubaki (Camellia) Oil is admittedly the best for the hair. It enhances the natural lustre and strength of the hair, and nourishes it generally. The oil is compressed from the camellia, and through a sanitary process, in bottled absolutely pure. Perfect for toilet.
Price 20 Sen, 30 Sen and 50 Sen.

本邦人の主髪に適する新鮮純良なるミツワ椿油は空も熱を加へずに搾取した新鮮純良な椿油で、普通の椿油と置り空も熱味を含まず、理想的な濃液性不乾性油と云つて毛髪に浸透する力が強いから、毛髪と空気が接觸することが少く、従つて空気が毛髪に接觸する結果、潤滑さ云つて、毛髪に悪い色素が段々に減り、赤毛や白毛に成り易い髪を除き、潔つたり臭気を發する等のことも無く、毛髪を發育を助け、日々黒く艶を麗はしくし、髪を、折毛などの髪は決してないのである。

改良コスメチック兼用椿油
本品は最良無比のミツワ椿油を基礎とし、温雅なる芳香料を加へたるものにして、従来のコスメチック或は髪油に代用すれば、空も熱を加へず毛髪を發育を助け、髪を麗はしくし、其色澤を黒艶ならしむるに最要の材料なり。

みつわ・つばきあぶら
みつわ椿油
本品は最良無比のミツワ椿油を基礎とし、温雅なる芳香料を加へたるものにして、従来のコスメチック或は髪油に代用すれば、空も熱を加へず毛髪を發育を助け、髪を麗はしくし、其色澤を黒艶ならしむるに最要の材料なり。



TRADE MARK
MITSUWA BRILLIANTINE
HARUNOYA-SHOTEN
オシロリアンチン
金三拾銭
（圖寫製品現）



Mitsuya Cosmétique
純植物製改良コスメチック
ミツワ固煉油
金二十銭
（圖寫製品現）



Mitsuya Tsubaki
純植物製
ミツワ椿油
金三拾銭
（圖寫製品現）




MADE IN JAPAN

TYRE

スポンジタイヤの提供

絶對にパンクの恐れなし
耐久絶大に
合理的な理想
旅行の道安金なり

空気代用のタイヤ
完全無欠のも多年研究
中
國にて發明せられたり

日本英國露國
印度佛米國
朝鮮一手販賣
兼山西二月

一〇商會

27882

PATENT NO



品質第一
誠實第一
賣行第一

龍

最上醬油
造元仁川港
日本醬油株式會社

京 城 出 張 所

東京市本町一丁目電話四五一五番

[illegible]